

詩篇 119:153-160

- 153 私の悩みを顧み、私を助け出してください。私はあなたのみおしえを忘れません。
- 154 私の言い分を取り上げ、私を贖ってください。みことばにしたがって、私を生かしてください。
- 155 救いは悪者から遠くかけ離れています。彼らがあなたのおきてを求めないからです。
- 156 あなたのあわれみは大きい。主よ。あなたが決めておられるように、私を生かしてください。
- 157 私を迫害する者と私の敵は多い。しかし私は、あなたのさとしから離れません。
- 158 私は裏切る者どもを見て、彼らを忌みきらいました。彼らがあなたのみことばを守らないからです。
- 159 ご覧ください。どんなに私があなたの戒めを愛しているかを。主よ。あなたの恵みによって、私を生かしてください。
- 160 みことばのすべてはまことです。あなたの義のさばきはことごとく、とこしえに至ります。

רָאה־עֵינַי וְסִלְצַנִּי כִּי־תוֹרַתְךָ לֹא שָׁכַחְתִּי׃  
 רִיבָה רִיבִי וּגְאַלְנִי לְאִמְרַתְךָ תִּינִי׃  
 רְחוֹק מִרְשָׁעִים יְשׁוּעָה כִּי־חָקִיךָ לֹא דָרַשׁוּ׃  
 רַחֲמֶיךָ רַבִּים יְהוָה כְּמִשְׁפָּטֶיךָ תִּינִי׃  
 רַבִּים רֹדְפֵי וְצָרִי מַעֲדוֹתֶיךָ לֹא נָטִיתִי׃  
 רָאִיתִי בְגָדִים וְאֶת־קוֹטָטָה אֲשֶׁר אִמְרַתְךָ לֹא שָׁמְרוּ׃  
 רָאה כִּי־פָקוּדֶיךָ אֶהְבֵּתִי יְהוָה כְּחֶסֶדְךָ תִּינִי׃  
 רֹאשׁ־דָּבָרְךָ אֱמֶת וּלְעוֹלָם כָּל־מִשְׁפָּט צְדָקָךָ׃

第二十字「レーシュ」の発音は、英字アルファベットの「R」に相当します。以下、原型のみ、読み方と意味を載せておきます。

- רָאה／ラーアー…見る、知覚する (153, 158, 159)
- רִיב／リーブ…努力する、主張する (154)
- רְחוֹק／ラーホーク…遠く離れた、遠い、遠方の (155)
- רַחֲמִים／ラハム…子宮、同情、哀れみ (156)
- רַב／ラヴ…たくさんの、多くの、大いなる (157)
- רֹאשׁ／ローオーシュ…頭、頂上、頂 (160)

今日の箇所は、前回の145～152節の内容といくつかの点で関連しています。

- 150 悪を追い求める者が近づきました。彼らはあなたのみおしえから遠く離れています。
- 155 救いは悪者から遠くかけ離れています。彼らがあなたのおきてを求めないからです。

この二つの節では、神のことばから遠く離れた生き方をしている者が、救いそのものから離れているという現実を明らかにしています。

149 あなたの恵みによって私の声を聞いてください。主よ。あなたの決めておられるように、私を生かしてください。

156 あなたのあわれみは大きい。主よ。あなたが決めておられるように、私を生かしてください。

「あなたが決めておられるように」という表現は132節にも出てきました。これは「裁き」を意味する「מִשְׁפָּט」(ミシュパート)の意識で、「神のことば」の言い換えです。神の正しい裁きの決定は詩人を生かしたのです。

151 あなたの仰せはことごとくまことです。 152 私は昔から、あなたのあかしで知っています。あなたは とこしえからこれを定めておられることを。

160 みことばのすべてはまことです。あなたの義のさばきはことごとく、とこしえに至ります。

神のことばの真実性と永遠性が強調されています。人の世は不真実がまかり通り、言葉そのものが歪み、常に揺れ動きます。しかし、神のことばは真実にして永遠に不変です。

詩人の心には「悩み」(153節)があり、神に聞いてもらいたい「言い分」(154節)がありました。彼を「迫害する者」「敵」(157節)、「裏切る者ども」(158節)に囲まれていたようです。「どんなに私があなたの戒めを愛しているか」と言いうるほどに、生き方において御言葉に従おうとしている詩人を攻撃する者がいたのです。御言葉に聞き従う人はどうして迫害されるのか。そこには単純な理由があります。それは、彼／彼女が不正に加担せず真実を述べるため、悪を企む者にとっては迷惑で仕方がないからです。彼らの不義が暴かれることを恐れているのです。

小さな話ですが、昔同級生が、親にもらったお金で買い物をし、そのお釣りをちゃんと返していたようです。ところが、同じ物を買った彼の兄はお釣りを返さなかったようで、弟が返した結果その事実がバレてしまいました。そのとき、兄が「お前が返したせいで俺まで返さないといけなくなったじゃねえか」と怒っていたのを覚えています。弟は「返すものを返して何が悪いんですか」と反論していました。

人が正しく生きようとするとき、不正を行なう者は自分の闇が露わになるのを防ぐために攻撃を仕掛けるのです。この詩人はおそらく、もっと大きなレベルにおいてそのような経験をしたのでしょうか。しかし、彼は人を恐れず、神を畏れていました。私たちも「小さなことに忠実」(ルカ 16:10)な生き方を志していきたいと思います。